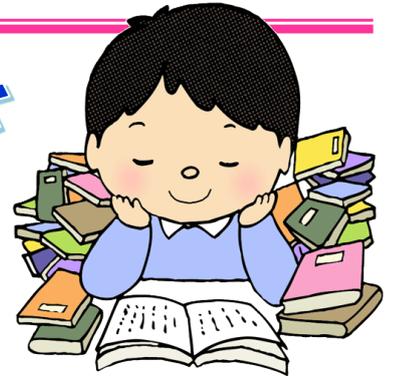




「紙の本」を手にとる機会を



雨後の新緑がひときわ濃く感じられる今日この頃です。学校では、プール開きが行われ、3年ぶりの水泳学習が始まるのですが、気温・水温が上がらないのでなかなかプールに入れない状況が続いています。（発行日の21日は、やっと全学年はいることができました。）

さて、6月といえば福栄小学校では、例年「レインボー旬間」が行われる季節です。図書委員会の児童のおすすめ本が階段の壁面に掲示してあったり、図工・家庭科専科の先生や教務の先生、教頭先生の読み聞かせがあったりと様々な取り組みが行われています。

さて、デジタル媒体で本を読む機会も多くなった最近ですが、「紙の本」を読むことにどんな意味があるのでしょうか。少し古い記事ですが、令和2年7月12日の読売新聞の記事に米国の神経科学者であるメリアン・ウルフ氏の見解が載っていました。その記事の中に、「デジタル媒体と紙媒体をめぐる比較調査があります。欧州で2000年から17年にかけて若者総計17万人を対象にした大実験です。その結果は、紙で読む方が話の内容・筋立て・場面などをよりよく記憶し、理解できた。幼年時からデジタル媒体に親しんできた世代でも結果は同じでした。彼らには、『早く読む』ことを『よく理解する』ことと取り違える傾向があることも判明しました。・・・私見では、電子書籍にも同様の落とし穴がある。つい読み流し、吟味がおろそかになり、『深い読み』ができない。真の理解は、時に立ち止まり、後戻りして、あえて言えば作者が姿を現すのを待つことで得られる。忍耐が必要なのです。デジタル媒体は結末に向けて読みをせかしてしまうのです。」という部分があります。これを読んで、私も、思い当たる点がありました。紙の本を読んでいるときに、前に戻って確かめてから読み進めたり、繰り返しその一文を読んでみたりすることがあります。確かに読書をしているときには、その世界に浸っていて、気づくと「もうこんなに時間がたっている！」ということも少なくありません。



メリアン・ウルフ氏は「デジタル媒体と紙媒体の双方で『深い読み』のできる『二重の脳』を育むこと」がしたいと言っています。「子供の時になるべく多くの本に親しみ、デジタル媒体は意識的に注意深く読む習慣をつける。」そうした時代に即した読みを工夫することが必要だということです。

一人1台の学習用端末が配付され、学校でのデジタル化は今後どんどん進んでいきます。教員たちも、ICTを使いこなして授業に効果的に取り入れていくために、研修を重ねています。しかし、やはり子どもたちには、紙の本を1ページずつめくりながら、時に立ち止まったり、じっくりと考え込んだりしながら、本の世界をたっぴりと楽しむ時間も大切にしてほしいと思います。

デジタル化の波の中で、子ども時代にこそ「紙の本」に触れる機会を大切に、「二重の脳」を育てたいと思っています。時には、ご家庭でも、読み聞かせをしていただいたり、反対にお子さんに読んでもらったり、感想を話し合ったりする時間を持っていただけるといいと思います。



図書委員会の児童のおすすめの本

第1回学校運営協議会が行われました

5月27日15時から、今年度第1回目の学校運営協議会が行われました。学校運営協議会とは、市川市教育委員会から委嘱を受けた委員で構成されています。委員は地域住民代表、保護者代表、学校代表等からなり、一定の権限と責任をもって学校運営に参画していただきます。学校運営協議会は「学校にある学校応援団」であり、「地域とともにある学校づくりを目指す仕組み」です。

今年度は委員の改選があり、委員の皆様は、今年度から2年間の任期となります。

まず、各委員の自己紹介の後、校長より今年度の学校運営方針についての説明をさせていただき、委員の皆様からご質問やご意見をいただいた後、学校経営方針についてのご承認をいただきました。

意見交換では、「地域の公園で、キックボードなど、道路にはみ出して遊んでいて危ない場面を見る。」「今年度は、読み聞かせなどの取り組みはできるのか。」「コロナ禍で、学校と地域の触れ合いが減っている。子どもたちのためにできることをしたい。」などありがたいお話を多数いただきました。今後の学校経営に生かしていきたいと思えます。

委員の皆様にはご多用の中お集まりいただき、様々なより良い学校づくりのために貴重なご意見をいただいたり、話し合いをしていただいたりして、充実した時間となりました。



福栄小学校での さまざまな取り組み

少し紹介します！

福池に
かもが
来たよ！



なかよし活動

1年生～6年生までの縦割りグループ活動

4月から、歩き遠足等1・6年生、2・4年生、3・5年生のペア学年での活動は始まっていました。

6月9日のロング昼休みに「なかよしグループ」の顔合わせがありました。「なかよしグループ」は、1年生から6年生の15人くらいで1グループになっています。9日には、自己紹介をした後、リーダー、副リーダー、グループ名の決定、そして23日のロング昼休みに何をして遊ぶかの話し合いをしました。6年生が、しっかりと話し合いを進めていて素晴らしいです。コロナも落ち着いているので、福栄小の良さを生かした「グループ活動」を行い、みんながお互いを思いやれる心を育てていきたいです。



みとめ「あい」

不審者対応訓練

きたえ「あい」

昨年度に引き続き、行徳警察署から、生活安全課の方にお越しいただき「不審者対応訓練」を行いました。子どもたちは、各教室でとても静かに待機することができました。今年度は、訓練の後に、teamsを使って、警察の方から不審な人に出会ってしまったときのことや、夏休みの生活の注意点について話していただきました。



3年生のモンシロチョウ



まなび「あい」

「まなびくらぶ」

今年度も「まなびくらぶ」が始まります。対象は、3・4年生です。7月6日の水曜日の放課後から始まる予定です。3・4年生には、文書を配付してありますので、詳しくはそちらをご覧ください。

3年生の教室前廊下には、たくさんの虫かごが並んでいて、みんながお世話をしています。

この前のプール掃除の時に先生方が捕まえたヤゴもいます。

先日の朝、3年生の教室に行ったときに羽化したモンシロチョウを見せてもらいました。その日は、たくさん羽化したそうで、その前に子どもたちは、羽化して飛んでいくチョウを見守ったそうです。きっと、みんな優しい気持ちで、モンシロチョウの旅立ちを見送ることができたでしょう。